

(仮称)葛飾区地域公共交通計画(案) 概要版

計画の概要

背景 本区では、令和元(2019)年度に『葛飾区公共交通網整備方針』を策定し、鉄道やバス・タクシーなどの公共交通だけでなく、自転車や徒歩、道路整備など地域の交通政策を総合的かつ体系的に推進してきました。その後6年が経過し、アフターコロナの新しい生活様式や、若者人口・外国人人口の増加、運転手不足、物価高騰、交通関連の技術革新など、交通を取り巻く環境は劇的に変化しています。これらの変化・課題に的確に対応しつつ、これまでの取組を発展的に引き継ぐために、葛飾区地域公共交通計画を策定するに至りました。

計画の期間 令和8(2026)年度から令和12(2030)年度の5年間

計画の区域 葛飾区全域

地域公共交通を取り巻く課題

課題① 鉄道駅間をつなぎ、まちづくりを支える南北方向の交通ネットワークの強化が必要

- 南北方向の鉄道が不足・路線バスが幹線交通として機能
- 区民の意見は、きめ細かなバス路線や、定時運行を重視する傾向
- 南北を結ぶ貨物線「新金線」の旅客化の早期実現に向けた検討を実施している。
- 広域を結ぶ鉄道計画路線の早期実現に向け、沿線自治体が一体となって検討している。

課題② 将来的に更なる人手不足が見込まれる中、地域の移動ニーズに合った交通サービスが必要

- 回復する路線バス需要と運転手不足。
- 区内のバス路線の満足度は総じて高いレベル。時刻表やルートのがりにくさ等が利用の障壁。
- 運賃がタクシー利用の障壁。アプリ配車以外の場面でタクシーがつかまりにくくなっている。

課題③ 都市整備と連携した路線再編や交通拠点整備が必要

- 新小岩、金町、立石の3駅周辺で再開発が進行
- 駅周辺の駐輪場拡充の要望。鉄道と他の交通機関との乗り継ぎ改善の要望

課題④ 自転車と公共交通の連携による相互の活用推進が必要

- 平坦な地形から、多くの区民が自転車を利用

課題⑤ 観光など来訪者向けの交通サービスの整備、情報発信が必要

- 新施設の開業により来訪者の増加が見込まれている。水辺空間・舟運の活用
- 外国人人口が増加傾向、多言語対応の必要性

課題⑥ 持続可能な公共交通実現のために、自治体を中心とした地域の関係者の密な連携が必要

- 路線バス事業者の運転手不足による減便
- 交通政策基本法や地域交通法の要請(交通サービス維持への自治体の積極的な関与)

課題⑦ 誰もが快適に利用できる公共交通の実現のため、多様なニーズへの対応が必要

- わかりやすい路線図やリアルタイム発信の強化など、情報提供の要望が高い。
- 若年層人口の増加傾向、将来的な高齢化の進展により移動ニーズが多様化

課題⑧ テクノロジーの活用による公共交通サービスのソフト・ハード両面での進化が必要

- DXや自動運転・MaaSなど最先端技術の進展

基本的な方針と目標

基本方針

区民(利用者)、交通事業者、区が協働し、区内を移動するあらゆる人にとって「わかりやすく・利用しやすい公共交通網」を目指します

利用しやすい公共交通の軸



南北の拠点間をつなぐ幹線交通は、本数が多く時間も正確。通勤・通学はもちろん、日々のお出かけも時間を気にせず利用できます。

スムーズにつながる交通網



駅やモビリティハブに行けば、路線バス・タクシー・自転車等への乗り換えがスムーズにでき、自宅や行きたい場所まで楽に移動できます。

わかりやすく快適なお出かけ



スマホやサイネージで運行情報がすぐ分かり、待ち時間の不安が解消。バリアフリー化などの環境整備も進み、誰もが安全・快適に目的地へたどり着けます。

図 将来の地域公共交通の利用イメージ

計画の目標

目標① 鉄道駅間をつなぐ幹線交通(南北交通)のサービス向上

- 新金線を活用した新たな交通システムの構築について、早期実現に向けた検討を進めます。
- 地下鉄8・11号線の延伸、メトロセブンの建設促進に向けて、沿線自治体と連携し検討を進めます。
- 各鉄道駅間を結ぶ南北の路線バスのサービス向上を図ります。
- 渋滞等で定時性が確保できていない区間について、走行環境の改善などによる定時性確保の取組を実施し、南北の路線バスの利便性向上を図ります。

目標② 地域・利用者寄り添った生活交通の維持・確保

- 地域内の移動、日常生活での移動にとって欠かせない既存の生活交通について、維持・確保を図ります。
- 路線バスの休廃止や減便等により、移動の利便性が低下しているエリアについては、面的な移動手段(グリーンズローモビリティを用いた地域主体交通や小型車両活用デマンド交通など)も含め、地域の移動の足を確保します。

目標③ 駅周辺及び道路空間の再構築に合わせた多様な交通サービスの展開・共存

- 駅周辺街づくりに合わせた駅前広場整備を進め、公共交通の結節機能の強化を図ります。
- 自転車通行空間や自転車駐車場の整備などを通じて、公共交通ネットワークの補完や環境負荷の低減につながる自転車の利活用を推進します。
- 区内観光を活性化させるよう、交通手段の充実を図ります。
- レクリエーションや公共交通への活用など、舟運の検討を進めます。

目標④ 官民の連携・共創による利用者拡大と交通環境整備

- バス事業者の運転手不足が深刻化していることから、官民の連携により運転手の確保を図ります。
- バス停留所整備、モビリティマネジメント、バリアフリー推進などを通じて、公共交通の利用促進を図ります。
- 自家用車を利用しなくても安心して移動できる交通環境を整備し、公共交通利用への転換を促進します。

目標⑤ ICTや新技術を活用した利便性向上や生産性向上

- デジタルを活用した運行情報の提供や総合的な情報発信により、公共交通の利便性向上を図ります。
- 次世代モビリティや自動運転等の新技術の活用に向け、研究・検討を進めます。
- 2050年のゼロエミッションかつ達成に向けて、環境配慮型車両の導入を推進します。

総合的なKPI

葛飾区内の移動における自動車の交通手段分担率	10.3%(平成30年)⇒減少(令和12年)
交通の便が良いと思う区民の割合	54.9%(令和6年)⇒61.3%(令和12年)

(仮称)葛飾区地域公共交通計画(案) 概要版

目標達成のための施策

目標① 鉄道駅間をつなぐ幹線交通(南北交通)のサービス向上

施策① 新金線の活用及び鉄道プロジェクトの促進

①-1: 新金線を活用した新たな交通システムの構築

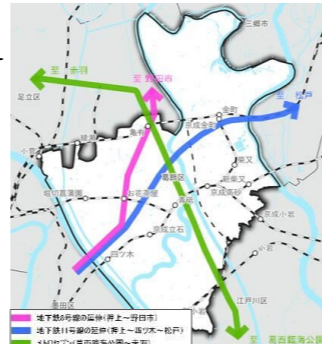
区内を南北に走る新金線の資源を活用し、新小岩、金町、高砂といった広域拠点をつなぐ新たな交通ネットワークの構築に取り組んでいきます。



①-2: 鉄道プロジェクトの促進

南北方向の鉄道ネットワークの充実に向け以下を検討を行っています。

- 地下鉄8・11号線の延伸計画
- 環七高速鉄道(メトロセブン)の新設



施策② 路線バス(幹線交通)の高度化

②-1: 路線バス(幹線交通)のサービスレベルの維持・向上

本計画で幹線交通(南北交通)として位置付けた路線バスについては、区内移動の主軸として、必要十分なサービス提供に努めます。



②-2: バス走行環境の改善 幹線交通(南北交通)としての路線バスの速達性や定時性を確保するため、走行環境の改善について検討を行います。

- 交通渋滞解消などを目的とする鉄道立体化の推進
- 路線バスの速達性・定時性の確保



目標② 地域・利用者に寄り添った生活交通の維持・確保

施策③ フィーダー交通の維持

③-1: 路線バス(フィーダー交通)の維持

区内各地域において、鉄道駅や公共施設、商業施設や医療施設など、生活に密着した施設への交通利便性を確保します。

③-2: 循環バス・地域乗合交通の維持

区民の日常生活の移動手段を確保するために、運行経費の一部を区が支援して運行している交通手段については、利用者数などの各種指標をモニタリングし、適宜、評価を行いながら、路線を維持していくための方策を検討していきます。



施策④ 地域密着型の交通手段の確保

④-1: 地域住民・企業との協働

地域組織が運行主体となり、身近な生活圏における移動手段を増やす地域主体交通や、地元企業の送迎車両の空席を活用することで地域住民の外出を支援する企業送迎車両活用の取組を支援し、地域の活性化を図ります。



④-2: 小型車両活用 デマンド交通

○小型車両(タクシー)を活用したデマンド交通の導入検討
○実証運行中のサービスの継続運行
○実証運行中のサービスの更なる展開

④-3: 面的な交通ネットワークを担うタクシーの運行体制確保

タクシーは、鉄道や路線バスのネットワークではカバーしきれないエリア・時間帯・利用者ニーズに柔軟に対応できる面的な公共交通サービスとして重要な役割を果たしています。移動手段の活用という面から、タクシー利用についても、利便性向上に向けた取り組みを実施します。

目標③ 駅周辺及び道路空間の再構築に合わせた多様な交通サービスの展開・共存

施策⑤ 都市施設の整備に合わせた路線検討と交通結節機能の強化

⑤-1: バス路線の再編検討
都市計画道路や駅前広場の整備進捗を踏まえ、既存バス路線の再編などの検討を行います。

⑤-2: 交通結節点の強化
駅前広場のバリアフリー化、歩行者、バス及びタクシーの利用環境改善、駐輪場の整備などを進め、交通結節機能の強化を図ります。

⑤-3: モビリティハブの整備
区内で利便性の高いバス路線が交錯する地点や、将来的なまちづくりの進展に併せてモビリティハブ整備に向けて検討します。

施策⑥ 公共交通を補完する自転車利活用の推進

⑥-1: サイクル&バスライド整備
バス停留所付近にバス利用者用の自転車駐輪場を整備します。

⑥-2: シェアサイクルの推進

⑥-3: 自転車通行空間・自転車駐車場の整備

⑥-4: 自転車等安全利用の推進



施策⑦ 観光振興や中川かわまちづくりに寄与する交通環境の充実

⑦-1: 観光資源を結ぶアクセス手段の確保と回遊性の向上
○観光周遊に資する取組の検討

⑦-2: 中川かわまちづくりの進捗に合わせた舟運の検討
今後、拠点となる見晴らしデッキの整備や船着場の設置が検討されていることから、観光要素を取り入れたアクセス手段や舟運の検討を進めます。



目標④ 官民の連携・共創による利用者拡大と交通環境整備

施策⑧ バス運転手確保の取組

- ⑧-1: バス運転手確保の取組
○運転手採用の拡大
○就労環境の改善
○運転手採用強化に対する支援
○地域との協働による運転手確保の取組
○一般区民への周知協力

施策⑨ 公共交通の利用促進

- ⑨-1: 公共交通の利便性向上
○バス停留所ベンチ・上屋の整備
○決済システムの高度化
○情報案内表示の多言語対応
○各種環境整備への支援
- ⑨-2: モビリティマネジメントの実施
○バス、タクシー乗り方教室
○広報や区HP・SNSを用いた周知
○葛飾区内バス路線図
○モンチャレアプリとの連携

施策⑩ 交通部局及び関連部局との連携の推進

- ⑩-1: 子育て世代に対する移動支援施策の推進
- ⑩-2: 高齢者に対する外出促進施策の推進
- ⑩-3: 障害のある方等の移動制約者に対する交通手段確保の検討
- ⑩-4: 分野横断的な庁内連携体制の構築

施策⑪ 誰もが安全に利用できる環境づくり

- ⑪-1: 公共交通のバリアフリー化の推進
区全体で公共交通のバリアフリー化の取組を推進していきます。

目標⑤ ICTや新技術を活用した利便性向上や生産性向上

施策⑫ 交通データの整備・活用

⑫-1: 運行情報のGTFS化の推進と総合的な情報発信の推進
運行情報のGTFS化によるサービス拡充により、利用者向け情報提供の強化を図ります。

⑫-2: 交通データを活用した運行改善・評価
交通サービスに係る各種データを活用して、より効果的な対応を検討します。

施策⑬ 新技術の活用検討

⑬-1: 自動運転サービス等の実証実験
○自動運転バスの導入検討
○自動運転バスの実証実験実施検討

⑬-2: 環境配慮型車両の導入推進

